

Fons Sapientiae

仙台白百合女子大学図書館報 フォンス サピエンティアエ



Information
de la Bibliothèque
de l'Université SENDAI SHIRAYURI

No. 8
2010.4.1

◆ Contents

- 1 仙台白百合女子大学図書館の過去・現在・未来
- 2 推薦図書
- 3 利用者の声
- 4 図書館からの情報
- 6 新着図書の紹介
- 7 図書館雑感⑦
- 8 図書館からのお知らせ
- 8 図書館利用状況
- 8 編集後記

仙台白百合女子大学図書館の過去・現在・未来

仙台白百合女子大学図書館長 大本 泉

4年前のことである。旧校舎の2号館をリフォームして、新仙台白百合女子大学図書館が誕生した。4月には、本学の図書委員会から様々な改革案が出されていた。

小館は、それまで他館との交流にあまり積極的ではなかった。ところが、1年後にカトリック大学図書館協議会、翌年には東北地区大学図書館協議会の当番校としての責務を仰せつかっていること、しかも大学基準協会の審査も迎えていることが発覚しての、いわば窮地に立たされての対応策でもあった。

最初に、図書館の理念および資料の「学習・教育・研究」を視野に入れた取書基準を作成した。そして、できるだけ電子的媒介を含む資料を増やして、利用者のニーズに応えようとした。その結果、全国的に利用者が減る中、学生利用の件数が増えている。他方、多くの業者に見積もりをとらせ、印刷等にかかるコストを大幅に削減することができた。さらに対外的な面からの「図書・紀要委員会」から「図書委員会」への改称。当時、母校の図書館で行われていた「検索ツアー」を借入し、学生利用へのサービスを目に見えるかたちにした。並行して、図書館からの発信および広報活動として、小紙のような図書館報を発行することになる。地域開放という目標に関しては、危機管理の問題が残るものの、女性であれば誰でも利用できるようにした。受験生利用の実績ものこした。

如上に挙げたものが、4年間で行われたものの一部である。改革というにはおこがましい。あたりまえのことである。ここから本来の図書館としての活動が始まるといってもい

いだろう。

小館に残された課題は、たくさんある。本学らしい資料を一層収集して、外へ発信していかなければならない。そこでは、収集した情報を蓄積する主体の見識と判断が要請される。とくに電子図書館としての特性も明確にしていく必要がある。たとえば資料と紀要等の電子化は、その質がますます問われるのは当然である。いずれは、情報交換としてのRFID等も視野に入れていかなければならないだろう。提携校の増加に伴い、海外図書館との提携も急務と思われる。図書館企画の催し物も増やしたい。最も重要なことは、魅力的な図書館として、利用者をまきこんで、共に育んでいく工夫だろう。

私事ではあるが、父は、敗戦直後の宮城県図書館復興メンバーの一員だった。他に決まっていた就職先を蹴ってまで図書館復興に関わりたかったのは、平和な民主主義の世の中になり、どのような思想も県民と受容・共有できる<自由>を覚えたからだそうである。もし父が生きていたら、現代の電子資料のありように、驚くだろう。もちろん、図書館は進化し続ける必要がある。しかし、手段と方法や、資料の形が異なるだけで、昔も今も図書館に求められるものの神髄は変わらない。

図書館長と図書委員長としての任期満了を迎えた。図書委員と図書館員には、仕事が増えたと苦笑されたが、充実した4年間だった。校務の中で、最も創造的な仕事ができる場と思われる。このように思えるのも、本学の教職員及び学生と、とくに図書委員と図書館員のおかげである。この場を借りて、厚く御礼申し上げたい。

生物と無生物のあいだ／福岡伸一著（講談社現代新書） 講談社

健康栄養学科
佐藤幸夫

一読をお勧めしたい。

著者の福岡伸一氏は分子生物学者であり、優れた研究を活発に展開している傍ら、本書以外にも多くの著作をものしている。それらの著書に共通しているのは、「初学者にとって教科書が無味乾燥になりがちなのは、なぜその知識が求められたのかという切実さが記述されていないからである」という想いである。読んで納得がゆく、推薦理由の第一である。

生物とは何か？ この間に答えるヒントは「高度の秩序が保たれている生物においてはその秩序が絶え間なく壊されている。そのような秩序がどのようにして維持されているのか」という矛盾に満ちた間にある。生命を構成している分子は絶え間ない分解と再構成のダイナミズムの中にある。つまり、生命とは動的平衡状態にあるシステムである。本書はこのような概念を鮮やかな語り口で提示し

ている。これは生命観の構築に際して重要な考えであり、第二の推薦理由である。

野口英世といえば、日本では誰もが知っている医学者、細菌学者である。しかし、彼が留学したロックフェラー大学での評価は日本でのものとは全く正反対で、とんでもない人間だという。こんな話から始まるが、その他いろいろな研究者のエピソードや科学者たちの感動の物語が著者自身の実際の経験を交えながら述べられている。本書はサントリー学芸賞を受賞したが、さらに新書大賞も受賞したというダブル受賞から推察できるように、専門家以外の読者も大いに共感するものがあると思われる。

欧米の大学では分子生物学は理系、文系を問わず必須の教養科目とされているが、その意味で本書は分子生物学入門書ともいえる。ちょっと硬めではあるが気軽に読める。第三の推薦理由である。

世界の大学危機／潮木守一著 中公新書

会計課長
高橋 豊

私はこの本を皆様にお薦めいたします。この本は著者である潮木先生が授業用の教材として編集された本ですが、世界の高等教育の変遷がわかりやすく記されています。特徴として4つの国の高等教育について書かれています。イギリス、ドイツ、フランス、アメリカについてです。大学の歴史は古く、現在の大学の原型ができたのは、近代大学と言われたベルリン大学であり、フンボルト理念により発展してきたと言われております。細かな部分は、本を読んで頂ければと思いますが、簡単に言うとも教員は研究者を行い、それを学生に講義するということです。

日本の大学のことは、この本には書かれておりませんが、日本の大学もまたドイツ型が進められてきた訳ですが、戦後はアメリカ型になってきて

いると言われております。現在の日本の大学の状況は、アメリカの20年から30年前の後追いの状況だと言われております。そのため、アメリカの歴史を勉強することで日本の大学の進むべき方向性が見えるかも知れません。

ちょっと抽象的になってしまいましたが、大学の歴史を紐解いていくとイギリス、ドイツ、アメリカの高等教育の変遷に行き着くとともに、このことを知ることで日本の高等教育についても知りたいと思つてきます。最後になりますが、この本の最大の魅力は、研究者が書いているのに、とってもわかりやすく高等教育の大きな流れを知ることができるという点だと思います。皆様も大学の歴史を知り、自分が学んだ大学を知ってください。

マザー・テレサ 愛と祈りのこと／マザー・テレサ／ホセレイス・ゴンザレス・バラド編／渡辺和子訳

人間発達学科3年
目黒 雅

皆さんは「愛」や「友人」「家族」「社会」などについて悩むことはありませんか？

悩むことはとても苦しく、辛いことです。誰かに相談したくてもできないこともあると思います。私もその一人です。そのような時に出会ったのがこの本でした。

この本との出会いは書店ではなく、若者が多く訪れる雑貨屋でした。この本は理解しやすい内容で、文章も少なく一章ごとが短いので若者に支持されているのだと思います。実際私は本を読むのが得意な方ではありませんが、この本は非常に読みやすく感じられました。

この本は私達が日々悩むことについての答えが、マザー・テレサの言葉で書かれています。特に私に心が残ったのは第10章「ほほえみ」です。それ

には「苦しみが私たちの生活に訪れてくる時、ほほえみをもって受け入れましょう。～ほほえみながら受け入れる勇気は神様からの最も偉大な贈物といえます」というマザーの言葉が書かれています。実際嫌なことや、あまり親しくない人々に対してほほえみかけることは難しいです。しかし何でもないほほえみが及ぼす効果には、計り知れないものがあります。見返りを求めずほほえむことで「愛」が生まれ、その苦しみをきつと受け入れることができるでしょう。

私はこの本のお陰で心が救われました。思い悩んだ時には読み返し、暗い心が明るく照らされます。皆さんにもこの本を読んでいただき、今悩んでいることが解決できればと思います。

サンキュー、メルシー、スパシーバ

国際教養学科 砂澤健治

私の場合、図書館で本を読むことはめったにない。読みたい本があれば、自分で買う。返却期限を気にすることなく、好きなときに好きな本を家で寝転がって読む方が気楽だからである。図書館はどこか堅苦しい。そう言いながらも、なぜか週に1、2度は、図書館へ通っている。授業で使用するDVDを借りるか、辞典・字典・事典を利用するためである。特に、辞典はよく利用する。人がたくさんいるからかもしれないが、家で調べるよりも断然気乗りする。本学の図書館は、小さいながらも外国語の辞書は揃っている。

『オックスフォード英語辞典』『ロベール仏語辞典』『グリム独語辞典』など専門性の高いものだけでなく、授業で使える学習辞典、それから世界各地の言葉については、大学書林のシリーズものがあるところに置かれている。

昨年は、留学生がわずか一人であったが、今後はますます増えていくことであろう。どんな国から来た人にも、せめて御礼の言葉ぐらい言えるよう、世界各地の「ありがとう」を、早速、辞書で調べなくては！

図書館を利用して

学生課 梶原麗子

私はどちらかというと読書が苦手です。しかし、本が好きな友人が多く一緒に図書館で過ごす時間が多かったせいか、昔から図書館という空間は好きでした。

社会人になってからは図書館を訪れる機会がなくなり、もっと学生時代に読書しておけば良かったと思うこともありましたが、この職場に再就職してからは、気軽に寄ることが出来、図書館を訪れることが増えました。仕事後に行くことが多く閉館まであまり時間がない場合もありますが、本

の題名や表紙のデザインなどを眺めながら書架の間を移動しているだけでも何となく心が落ち着き、良い気分転換になります。

それに図書館には、私の大好きなミュージカルや舞台の原作本も数冊あります。長編小説が多いためなかなか手が出せないのですが、冬休みや年末年始に特別貸出という、本を読むのが遅い私にとって嬉しいシステムもあるので、近いうちに「レ・ミゼラブル」を読みたいです。

私達の図書館

健康栄養学科(3年) 伊藤久美子

この仙台白百合女子大学の図書館は、様々な顔を見せてくれる。

朝はまず、ピロリロリンという明るい音で出迎えてくれる。勉強している間に何かわからないことがあると、本達が答えてくれる。勉強に集中しすぎて頭が熱くなった時には、部屋の奥へ足を運ぶと古い本だけがもつ紙の良い香りが気分転換をさせてくれる。帰る時には、また明日来るからねとつい思ってしまう。

春。温かい光を受けた階段のステンドグラス達がひとときわ輝いて見える。たくさんの方々が訪れてきて、図書館が喜んでいるような気がする。

夏。外が暑ければ暑いほど、図書館内のひんやりとした空気が気持ち良くて、勉強がはかどってしまう。

秋。三階の窓から見えるオレンジの夕日があまりにきれ

いで、つい見とれてしまう。

冬。図書館に辿り着くと、図書館までの寒い道のりを忘れてしまうほど、温かく迎えてくれる。

私達がこのように快適に図書館を利用することができたり、勉強に励むことができたりするのは、この図書館に関係するスタッフのみなさんのおかげであると、私はいつも思っている。スタッフの方々は、図書館内の温度を丁度良く調節してくださったり、読みたいと思う本をすぐに用意してくださったり、本を閲覧しやすいように工夫してくださったりしてくれている。

私は、この図書館はもちろんのこと、スタッフのみなさんのことが大好きである。感謝しながら、この図書館に通い続けたい。

The screenshot shows the library's homepage with several key sections:

- ①** Navigation menu: Home, データベース, LINK, 中村真一郎 文庫, お知らせ
- ②** 蔵書検索 (OPAC) section: Includes links for 新図書館, 雑誌索引検索, フリーワードで探す, and 条件項目探す.
- ③** 学都仙台横断検索 (OPAC) section: Lists 学都仙台横断検索, カト大横断検索サービス, 宮城県図書館, and 仙台市図書館.
- ④** BOOK PLUS section: 電子ジャーナル
- ⑤** CiNii section: CiNii 雑誌記事・論文検索
- ⑥** MAGAZINEPLUS section: 雑誌・論文情報
- ⑦** 医学関連文献検索
- ⑧** PsycINFO/PsycARTICLES section: 心理学系文献検索
- ⑨** お知らせ What's New? section: 2010/1/6(水) 年度末の特別貸出, 2010/11/16(月) 冬休みのための特別貸出, 2010/11/4(水) 冬休みの受験生への開放案内
- ⑩** 日経テレコン21 section: 日本経済新聞デジタルメディア
- ⑪** データベース・KD 河北新報
- ⑫** ジャパンナレッジ section: 百科事典・辞書ほか情報知照関連
- ⑬** プリタニカ・オンライン section: 百科と年鑑検索
- ⑭** BOOK PLUS section: 図書情報

Additional features include a calendar for 2010年3月, a table of opening hours (開館時間), and a list of resources (資料リスト).

○図書情報の検索ができます

・蔵書検索 (OPAC) ①

本学図書館の蔵書が検索できます。雑誌索引検索では、本学所蔵雑誌のタイトルを五十音順に一覧表示します。新着図書では、最近1ヶ月間に受入した資料の一覧を表示します。

・学都仙台横断検索 (OPAC) ②

学都仙台コンソーシアムに加盟するうちの9大学、宮城県図書館、仙台市文学館の蔵書を横断して検索することができます。

・カト大横断検索サービス (OPAC) ③

日本カトリック大学連盟図書館協議会に加盟する大学図書館のうち14大学の蔵書と国立情報学研究所が提供する大学図書館総合目録データベース NACSIS Webcat の横断検索ができます。

・BOOK PLUS ④

昭和元年より現在までに出版された本、絶版書も含んで、約332万件の図書情報を収録したデータベースです。1986年以降の本には、内容・目次情報、小説のあらすじを収録、2000年以降の本には、著者紹介情報も掲載してあります。その他、最近の2週間の新着情報も掲載しており、図書に関して知るには大変便利なデータベースです。

○論文や雑誌記事の検索ができます。

・CiNii (サイニイ) ⑤

国立情報学研究所が提供する学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービスです。各大学の紀要など一部の論文については、全文閲覧可能なものもあります。

・MAGAZINE PLUS ⑥

国立国会図書館の雑誌記事索引をはじめ、論文や一般誌の記事も検索できる国内最大の雑誌・論文情報データベースです。

・メディカルオンライン ⑦

国内の医学関連分野の文献を検索し、FAX 受信や PDF ファイルの形態で原文献を入手できるサービスです。同じく医学関連の情報検索サービスである医中誌 Web の検索結果からリンクして、全文を見ることができます。

・PsycINFO・PsycARTICLES ⑧

PsycINFO は心理学とその関連分野の行動科学および精神医学、社会学、人類学、教育学、薬理学および言語学など社会科学に関する世界中の文献情報を検索できます。PsycARTICLES は心理学とその関連分野の学術論文、研究と実際の論文を提供するフルテキスト情報源です。共に、American Psychological Association(米国心理学会)が提供しています。

○新聞記事を検索・閲覧できます

・朝日新聞 聞蔵Ⅱビジュアル ⑨

1945 年から当日の朝刊までの朝日新聞の記事と、「週刊朝日」、「AERA」、「知恵蔵」、「人物データベース」が検索・閲覧できます。朝日新聞の記事を検索すると、テキストファイルとイメージがあり、イメージを選ぶと、新聞と同じレイアウトの記事を見られ、印刷することが出来ます。

・日経テレコン 21 ⑩

1981 年 10 月から当日の朝刊までの日本経済新聞の記事と、「日経産業新聞」、「日経流通新聞 MJ」、「日経金融新聞」の計 4 紙の記事を検索・閲覧出来ます。また、さまざまなビジネス情報をはじめ、「週刊東洋経済」「週刊ダイヤモンド」「週刊エコノミスト」の最新号の閲覧も出来ます。

・河北新報データベース KD (カーデー) ⑪

1991 年 8 月から前日までの河北新報に掲載された記事を中心にしたデータを検索・閲覧できるデータベースです。東北 6 県のきめ細やかな地域ニュースを収録しています。全文テキストファイルのほか、新聞掲載記事そのままのイメージで印刷することも可能です。

○レファレンス系のデータベースで知識情報の探索ができます。

・ジャパンナレッジ ⑫

「日本大百科全書」「日本国語大辞典第 2 版」「日本歴史地名大系」などの辞書・事典のデータベースに加え「会社四季報」や「東洋文庫」など多彩なコンテンツをもつ知識情報探索サイト。インターネット上の情報と違って、信頼性のある情報源から取られた優良コンテンツが満載されています。

・ブリタニカ・オンライン・ジャパン ⑬

「ブリタニカ国際大百科事典」および「ブリタニカ国際年鑑」をデータベース化した日本版と、多彩なコンテンツをもつ英語版「Encyclopedia Britannica」が利用できます。

○電子ジャーナルが見られます ⑭

本学図書館で冊子体としても購入している洋雑誌の中の 23 誌が、電子ジャーナルとして見られます。全文の検索ができるほか、各論文にリンクが張られていて必要な時に簡単に参照できるという点や、図書館が閉館していても、学内ならば閲覧できるといった利便性があります。

※①～③の蔵書検索以外は、学内のみでのサービスとなります。



書館から“NEWS”を続々発信!

新着図書を紹介



「紙の本が減るとき?」 前田暎 著 青土社

「めくらない世代」がやってくる! もはや「紙の書籍が失われた二十年後」は、過剰な妄想の産物ではない。そのとき、「文学」あるいは「本」は、いかなる動揺を受けるのか? 鋭い文芸批評家が、ネットワーク社会で「不可避に生じる変化」と対峙する。

グーグルの「ライブラリプロジェクト」や米アマゾンの電子書籍端末「Kindle」の発売、「iPad」の近々の日本上陸といった書籍の電子化がすすんできた今、紙の書籍はそれまでの「情報の器」という役割を終えてしまうのか。紙の本が亡びることは不可避としながら、紙の本や文学が、ネットワーク化によって直面している急激な変化を流通、インフラなどさまざまな側面から描いている。

著者の前田暎氏は「早稲田文学」の主幹編集者で、早稲田大学他の教師であり、「王様のランチ」でコメンテーターを務める市川真人氏が批評活動をするときの別名。



「21世紀イギリスの子どもサービス: 日本への示唆」 伊藤淑子 著 ドメス出版

深さを増す子どもの虐待と子どもの貧困。「いやな世の中だね」で片づけるのはもうやめたい。二つの問題を切り離さないイギリスの取り組みから学んだこと。そして日本国内でみつけた、あきらめないで進むための処方箋。

一方には、子どものために命をなげだすことも辞さない親がおり、他方には子どもを虐待する親がいる。この二つの現実を、どのように統合したらよいか。日本人は困惑しているが、世界の中にはすでに同じ問題に早期に直面し、対応を模索してきた多くの国々が存在する。そうした模索から日本が学ぶことは可能なのではないだろうかという問題意識に立ち、日本より早く子ども保護サービスの発展をはかってきたイギリスの状況と関連させながら、日本の課題を論じている。



「田舎町のレストラン、頑張る。」 奥田政行 著 マガジンハウス

山形県鶴岡市で生まれた著者が、東京で修行中、調理場で出会った“庄内の食材”何がなんだかかわからないけど味の仕組みが他のところの食材とは違う? という不思議な感覚を信じて、庄内に帰り、いろいろな庄内の食材のおいしさを体験し、“庄内の食材の素晴らしさをみなさまに知っていただくためのアンテナショップ”として「庄内 Veg-ITALIAN アル・ケッチャーノ」を開店した。

山形・庄内「アル・ケッチャーノ」の春夏秋冬59の斬新なレシピを公開。著者の天才的な味覚が生み出す美味、彼の生産者や食材・庄内に対する思いが込められた1冊。



「チャップリンの影: 日本人秘書高野虎市」 大野裕之 著 講談社

「コーノはすべてだ」チャップリンに18年仕えた日本人・高野虎市のことを、喜劇王はそう言って、全幅の信頼を置いた。

そのチャップリンが事実上の国外追放を経て、アカデミー賞特別賞を受賞するために、20年ぶりにアメリカの地を踏んだときのこと。黒柳徹子が「私は日本から来ました」と言うのと、チャップリンは「ジャパン」という言葉を聞いただけで泣き出してしまった。その涙の本当の理由とは。

チャップリン研究の第一人者である著者が、激動の時代を生き抜いた高野の数奇な人生を追った、大型ノンフィクション。



「千の風になって」紙袋に書かれた詩 井上文勝 著 ポプラ社

アメリカで、近親者の死や追悼にあたって読みつがれてきた詩で、原題は無く1行目を取って通称“Do not stand at my grave and weep”と言われる詩に、シンガーソングライター作家でもある、新井満氏が日本語の訳をつけ自ら作曲した歌が「千の風になって」である。

原詩は作者不詳とされており、訳詩者である新井満氏は、単行本「千の風になって」の解説で、原作者をめぐる複数の説の一つとしてマリー・E・フライの名を挙げているが、決定的な説とは紹介しておらず、作者不詳が最も適切としていた。

今回のこの本の著者は、約2年半にわたるマリーの娘リンドとの手紙や電話のやりとりによって、マリーの生涯やなぜこの詩をつくったかについて明らかにしている。

1932年、ナチス台頭前夜のドイツに残した母の死を知り悲嘆する友人のユダヤ娘をなくさめるため、この詩を買い物の紙袋に書き綴った、マリー・エリザベス・フライというアメリカ人女性が原作者であるという、納得の行く解答がここに得られたといってよいであろう。



「アボンリーへの道」 ルーシー・モード・モンゴメリー 原作 NHKエンタープライズ

生い茂る草花が織り成すパッチワークのような草原、時間とともに七色に変化する海辺のプリンス・エドワード島。この島にやってきた少女セーラがあふれる魅力でアボンリーの人々の心をつかんでいく。ルーシー・モード・モンゴメリーの作品「ストーリー・ガール」とその続編「黄金の道」をベースに、彼女の代表作「赤毛のアン」シリーズを含む複数の作品から人物やエピソードを交えて構成されている。20世紀初頭のプリンス・エドワード島で繰り広げられるユーモラスでいて時に感動せずにはいられない物語を、美しい四季の風景をバックに描写している。NHKでも放送され、カナダで作られたテレビ・ドラマとしては最大のヒット作となっている、大変評価の高い作品である。

パリのソーショワール図書館

人間発達学科 原田雅樹

私は、2000年9月より2005年3月まで、パリ13区にあるドミニコ会のサン・ジャック修道院に滞在し、科学哲学の博士論文を執筆していた。そこでは、50人程のドミニコ会士が共同生活を営んでいる。その修道院に隣接して、ドミニコ会フランス管区に属し、およそ25万冊の書籍と5千誌の学術雑誌を有するソーショワール図書館(Bibliothèque du Saulchoir)がある。神学や哲学、歴史の本を中心とした図書館である。私のパリ滞在中には、一日24時間、一年365日、その図書館に入ることができ、博士論文執筆のために大いに役立させていただいた。

この図書館の歴史を語るには、聖ドミニコによって13世紀に創設された説教者兄弟会の歴史と切り離して語ることはできない。説教者兄弟会は創立当初から当時の様々なキリスト教の異端や、他の宗教(特にイスラム教)との対話が目指されており、会員は、パリ大学などの大学で研究と教育、説教をした。サン・ジャック修道院はドミニコ自身によってパリ大学(ソルボンヌ)のすぐ近くにつくられ、それゆえにフランスでドミニコ会士は現在に至るまでジャコバンと呼ばれる。その修道院では後に、アルベルトゥス・マグヌス、トマス・アクィナスやエックハルトといった中世を代表する神学者が生活し、執筆活動や説教をすることになる。

このようなドミニコ会の歴史のなかで、ソーショワール図書館は、フランス革命以降の政教分離の歴史の波に翻弄されながら誕生した図書館といえる。近代にいたり、サン・ジャック修道院を含むパリにあった三つのドミニコ会修道院は、大きな図書館を備えることになるが、1789年のフランス革命により、修道院は接収され、ドミニコ会士も国外追放となる。当時のドミニコ会の蔵書は現在、フランス国立図書館や他の大学図書館の蔵書となっている。ちなみにフランス革命期のジャコバン派は、接収したパリのドミニコ会修道院で集会をしたことからそう呼ばれるようになった。1838年にフランスにドミニコ会が再興され、1865年には図書館もつくられる。しかし、1880年に再びドミニコ会士は国外追放、1895年に一旦フランスに戻るが、1903年に再三追放となる。そこで、ベルギーのソーショワールにフランス人ドミニコ会士養成のための修道院が創設され、蔵書もそこに移される。1939年にドミニコ会士はフランスに戻り、ソーショワール修道院もパリ郊外のエティオールという農村に移り、そこに図書館もつくられる。そこでは、カトリッ

クとプロテスタントの対話に新しい道を開くことになるイヴ・コンガール神父や、中世哲学研究に歴史的研究の鋏を取り入れたマリー・ドミニック・シュニュ神父らも、研究と若いドミニコ会士の養成にあたっていた。また、第二次世界大戦中、原子爆弾製造のマンハッタン計画の責任者であり、戦後、それに大きな良心の痛みを感じ、水素爆弾製造・実験の反対運動に加わっていた物理学者ロバート・オッペンハイマーの精神的支えとなった、科学に造詣の深い哲学者ドミニック・デュバル神父もそこで研究と教育に従事していた。1968年の学生運動が契機となり、ソーショワールの修道院は閉じられ、パリのサン・ジャック修道院を中心にドミニコ会神学者の活動がパリという都市に生きる人々のなかで展開されるようになる。ソーショワール修道院の蔵書もそこに移され、1974年にソーショワール図書館は一般の研究者にも公開された図書館として誕生し、現在に至っている。

現在、ソーショワール図書館は、研究者に豊富な資料を提供するとともに、様々な講演会やゼミナールを催している。晩年のミッシェル・フーコーも、ソーショワール図書館に頻繁に通って、宗教関係の研究をし、ドミニコ会士とも友情を結んだ。また、パリのサン・ジャック修道院の周囲には、ソーショワール図書館のほかに、トマス・アクィナスの著作のレオ版という校訂版をつくるための研究所、正教会やプロテスタントの対話のための研究所などもあり、ドミニコ会士が中心となって活発な研究活動がおこなわれている。学術雑誌Revue des Sciences Philosophiques et Theologiquesという100年以上の歴史を持つ国際学術雑誌もこの一画で編集されている。



図書館からのお知らせ

- 新聞コーナーが1階から2階入口北側のソファが置いてあるブラウジング・コーナー、新着図書コーナー付近に変わります。
- 図書館検索ツアーは、随時受け付けております。資料の検索やデータベースの使い方などを覚えて、充実した学生生活をおくりましょう。グループで申し込むか、先生を通して申し込んで下さい。
- 図書館では、今年度も夏季休暇中受験生への図書館開放を行う予定です。予定が決まり次第図書館のホームページで詳細をお知らせします。
- 図書館を利用された方のうち月ごとに一番多く利用された方へ、図書館のステンドグラスをモチーフとしたオリジナルの特製バッグを差し上げております。(但し、一度バッグをもらった方は、以降は対象外となります。)
- 2010年度前期もライブラリー・サポーターの募集を行います。応募要項は4月中旬に発表予定です。希望者は掲示にご注意ください。

● 2010年度図書館会議・研修会の情報(主なもの)

- ・ 2010年度東北地区大学図書館協議会合同研修会
期日：6月後半の予定
場所：岩手地区
- ・ 2009年度日本カトリック大学連盟図書館協議会会・実務研究会
期日：7月2日(金)の予定
場所：天使女子大学

- ・ 2010年度東北地区大学図書館協議会総会
期日：9月後半の予定
場所：国際教養大学図書館



図書館利用状況

2009年10月1日～2010年2月28日

学科	専攻	人数	入館人数	学科・専攻 入館回(回)	貸出冊数(冊)	学科・専攻 貸出回数(回)	貸出人数(人)	学科・専攻 貸出回数(回)	AV閲覧回数(回)	学科・専攻 AV閲覧回数(回)	AV閲覧人数(人)	学科・専攻 AV閲覧回数(回)
人間発達学科		374	1,838	4.9	903	2.4	442	1.2	156	0.4	129	0.3
総合福祉学科		288	1,661	5.8	833	2.9	401	1.4	128	0.4	107	0.4
	生活福祉専攻	142	645	4.5	266	1.9	134	0.9	79	0.6	67	0.5
	人間福祉専攻	146	1,016	7.0	567	3.9	267	1.8	49	0.3	40	0.3
健康栄養学科		321	2,144	6.7	845	2.6	441	1.4	58	0.2	54	0.2
	管理栄養専攻	230	1,859	8.1	740	3.2	385	1.7	48	0.2	44	0.2
	食物学専攻	91	285	3.1	105	1.2	56	0.6	10	0.1	10	0.1
国際教養学科		307	1,458	4.7	372	1.2	199	0.6	141	0.5	130	0.4
専任教職員		108	764	7.1	186	1.7	87	0.8	0	0.0	0	0.0
一般利用者(非常勤等含)		—	106	—	79	—	37	—	0	—	0	—
計		1,398	7,971	5.7	3,218	2.3	1,607	1.1	483	0.3	420	0.3

◆ 編集後記 ◆

Fons Sapientiae (仙台白百合女子大学図書館報) No.8をお届け致します。
今回は、巻頭言で図書委員会委員長及び図書館長を2期務められた、大本泉先生が「仙台白百合女子大学図書館の過去・現在・未来」と題して、4年間の実績の一部と課題について述べられています。大本先生が実績の一つとして紹介されている「図書館検索ツアー」は、学生にとって図書館が身近な存在になるきっかけになったと感じています。「図書館検索ツアー」によって、図書館の持つ様々な機能が利用し易くなり、学生の研究活動や知的好奇心探究等、様々な活動が活発になったように感じます。図書館の利用者は増加傾向にあり、学生の学ぶ意欲の向上が影響していると考えられます。このような学生の変化はキャンパスの雰囲気をもより活気のあるものにする期待されます。本学を取巻く環境が厳しい中、このような地道な活動の積み重ねこそが、本学の未来を明るくするものであると考えます。(大坂)

今回の図書館からの情報は、図書館のホームページからどんなことができるのか、基本的なことについて簡単に紹介してみました。今まで、データベース等わかりづらかった図書館のホームページを、4月からリニューアルしてわかりやすくしていく予定ですので、今回の情報を参考にしてホームページを見ていただき、ご活用いただければ幸いです。
2009年度は、図書館を長期休暇中に受験生に開放するという新しい試みがなされました。巻頭言の大本先生のお言葉にありますように、本学図書館はこの4年間でいろいろ局面をむかえて、それを一つ一つ乗り越えてきたという感があります。これもひとえに、館長として4年間ご指導いただいた大本先生と、各年度の図書委員の先生方、また、図書館を影で支えていただいた学生ライブラリー・サポーターの皆さんのおかげだと思います。この場をかりて感謝申し上げます。今後とも図書館をよろしく願っています。(生田)

図書委員：大本泉、大坂純、原田雅樹、佐藤幸夫
図書館職員：生出登、高橋成美、須藤清美、山口晋子